



障がい者や高齢者に

やさしいまちづくり

障がい者・高齢者が地域で 自立や自活のための支援を

市では、市民の心理的障がいや物理的障がいをなくし、安心して暮らせる社会を目指す「福祉のまちづくり」を展開しています。

合併時には、障がい（知的・身体・精神）ごとに異なっていた相談窓口を一本化し（ワンストップサービス）、利用者本位の相談が受けられるように、「障がい者何でも相談窓口」（現在は障がい者総合相談センター）を設置しました。

また、要望を受けて、高齢者や障がい者のみの世帯でこみ出しが困難な方を対象に家庭ごみの戸別収集も始めました。

障がい者のための施設整備では、平成17年に、精神障がい者が、軽作業などをしながら規則正しい生活習慣を身につけ、社会復帰のための訓練を行う小規

障がい者や高齢者にとってやさしいまちづくりを進めるため、市では、障がいごとに異なる相談窓口を一本化したり、障がいに応じた新たな施設づくりや待機者解消のため、高齢者施設を新設してきました。また、文化会館や川間駅、梅郷駅など、既存施設のバリアフリー化も積極的に進めてきました。

模通所授産施設「つばさ」の開設、18年には、知的障がい者が地域で自活するための手段を身につけられるよう、生活支援や体操、食品加工など働くことへの

支援を行う知的障がい者通所更生施設「ひばり」の開設、遊休農地を活用した園芸福祉などを実施してきたほか、あおい空を活用した、重度障がい者の短期入

車椅子でも移動しやすい歩道を

福祉のまちづくりパトロール参加者 幡野 喜志子さん

実際に車椅子で歩道を移動してみ、道路の段差や小さな穴に気づくことがたくさんあります。

これまでの福祉のまちづくりパトロールで、ちょっとした段差や穴ぼこなどの改修を市役所にお願ひし、対応してもらいましたので、以前に比べ歩道のバリアフリー

化が進んだと感じています。

平成25年から

は、福祉のまちづくりパトロールの範囲が広がって1キロメートルになりました。最終的には、野田市内全域でバリアフリー化が実現できるといいですね。



所や日中一時支援事業整備を進めています。

住み慣れた地域で 安心して暮らせるように

市では、高齢者が住みなれた地域で安心して暮らせるよう、市独自の福祉タクシー事業、住宅改造費助成、おむつの支給、健康づくり教室・はつらつ教室などの介護予防の取り組みなどを行ってきました。

高齢者施設の整備では、近年要介護者の増加による特別養護老人ホームの待機者が増えつつあるため、待機者を解消しようと、特別養護老人ホーム4施設に整備費を補助しました。

ほかにも、グループホームを6施設、認知症対応型デイサービス3施設、小規模多機能型居宅介護を4施設、小規模特別養護老人ホームを2施設、地域包括支援センターを4施設、特定施設（介護付有料老人ホーム）を2施設、シルバーサロンを1施設など、シルバープランに基づき、民間活力を導入しながら、計画的な整備を進めてきました。

